

4 箇所の概況調査結果について

○委員会による候補地選定の客観的判断資料とするため、概況調査を実施いたしました。
 ○本調査は、専門のコンサルタントに委託し、処分場候補地とその周辺の地形・地質・環境等について文献調査や現地調査を行う中で、現計画地（浅尾）と3箇所の適地候補地の計4箇所を相対評価するための基礎資料として、次のとおり10項目からなる比較評価表にまとめました。

現計画地（浅尾）と各候補地（3箇所）の比較評価表

評価項目	明野2（小笠原）	明野7（浅尾）	明野8（浅尾）	現計画地（浅尾）
(1) 法規制該当事項及びその対応	△ ・ 法規制はあるが、対応可能な範囲である。	△ ・ 法規制はあるが、対応可能な範囲である。	△ ・ 法規制はあるが、対応可能な範囲である。	○ ・ 法規制はあるが、許可取得済みである。 ・ 埋蔵文化財については、届出により対応可能な範囲である。
(2) 土地利用	○ ・ 公共公益施設は半径1km圏内になく、また、北側500mに集落があるが、搬入ルートが通過していないため、特に影響はないと考えられる。	○ ・ 公共公益施設及びレクリエーション施設が半径1km圏内にあるが、搬入ルートが直近を通過していないため、特に影響はないと考えられる。	○ ・ 公共公益施設及びレクリエーション施設が半径1km圏内にあるが、搬入ルートが直近を通過していないため、特に影響はないと考えられる。	○ ・ 公共公益施設及びレクリエーション施設が半径1km圏内にあるが、搬入ルートが直近を通過していないため、特に影響はないと考えられる。
(3) 水象	○ ・ 施設からの処理水については基準以下で放流するが、候補地下流の正楽寺川に利水施設（農業用取水堰）があり、これらの施設に対する水利権の対応が必要となる可能性がある。	△ ・ 施設からの処理水については基準以下で放流するが、候補地下流の鰻沢が利水施設（取水堰）と平面交叉しており、処理水の塩川への直接放流等の対応が必要となる可能性がある。 ・ 施設には2重シート等の遮水施設を設置することを前提としているが、候補地から1km圏内に、現在も使用している井戸が存在しており、代替上水の確保等の対応が必要となる可能性がある。	△ ・ 施設からの処理水については基準以下で放流するが、候補地下流の鰻沢が利水施設（取水堰）と平面交叉しており、処理水の塩川への直接放流等の対応が必要となる可能性がある。 ・ 施設には2重シート等の遮水施設を設置することを前提としているが、候補地から1km圏内に、現在も使用している井戸が存在しており、代替上水の確保等の対応が必要となる可能性がある。	○ ・ 浸出水処理からの処理水は、調整池を経由し、湯沢川に直接放流する計画である。
(4) 生態系	- ・ 動物の生息場としての重要性が明野2・7・8の3地区の中で7地区に次ぐ地区である。	- ・ 動物の生息場としての重要性が明野2・7・8の3地区の中で最も高い地区である。	- ・ 動物の生息場としての重要性が明野2・7・8の3地区の中で最も低い地区である。	- ・ 動物の生息場として良い環境が谷浴いを中心にみられる。
(5) 地質状況	○ ・ 地質条件の良い地点である。	△ ・ 地質条件が比較的良好な地点である。	▲ ・ 地質条件の低い地点である。	○ ・ 地質条件の良い地点である。
(6) 施設の概要及び機能性	▲ ・ 所定の廃棄物量を埋立てることが可能である。 ・ 搬入道路の整備が必要である。 ・ 覆土仮置場を同一敷地内に配置できず、施設配置は相対的に劣る。	▲ ・ 所定の廃棄物量を埋立てることが可能である。 ・ 搬入道路の整備が必要である。 ・ 施設配置は相対的に良いが、大規模な雨水調整池が必要となる。	△ ・ 所定の廃棄物量を埋立てることが可能である。 ・ 搬入道路の整備が必要である。 ・ 施設配置は相対的に良い。	○ ・ 所定の廃棄物量を埋立てることが可能である。
(7) 地盤の安定性	○ ・ 地盤の安定性は高いと評価できる。	▲ ・ 不等沈下及び土石流の発生が懸念され、地盤の安定性は低いと考えられる。	▲ ・ 不等沈下及び土石流の発生が懸念され、地盤の安定性は低いと考えられる。	○ ・ 地盤の安定性は高いと評価できる。
(8) 施工性	▲ ・ 掘削土工量が多く、候補地内の既存構造物についても留意する必要がある。 ・ 工事用道路の整備が必要で、また資材置場等の確保が難しい。	△ ・ 掘削土工量は少ないが、巨礫まじり土砂に留意する必要がある。	▲ ・ 掘削土工量が多く、巨礫まじり土砂に留意する必要がある。	○ ・ 掘削土工量が多く、残土搬出に留意する必要があるが、その他の条件は特にない。
(9) 跡地利用性	△ ・ 周辺は山林であり、有効な跡地利用方法がない。	○ ・ 近隣にはレクリエーション施設があり、複合的な跡地利用の可能性がある。	○ ・ 近隣にはレクリエーション施設があり、複合的な跡地利用の可能性がある。	○ ・ 近隣にはレクリエーション施設があり、複合的な跡地利用の可能性がある。
(10) 経済性 推定総工事費	62.6 億円	62.1 億円	76.4 億円	56.5 億円

※工事費の算定にあたり、処分場本体、覆土仮置場、搬入道路等の用地の取得若しくは借用に係る費用については、不確定要素があることから考慮していない。

※本表は、○、△、▲、×の4段階評価とする。（凡例を以下に示す。）

○：特に大きな問題がない。 △：問題はあるが、大して大きな障害とならない。 ▲：解決に大きな労力がかかるが対応可能である。
 ×：解決不可能である。 -：評価対象外